

# 水の文化

特集  
釣りの美学

——静寂と興奮の狭間で

水の文化 June 2018 No. **59**

水の文化 59 June 2018

特集 釣りの美学——静寂と興奮の狭間で

ミツカン水の文化センター



ミツカン水の文化センター



表紙：陽光きらめく海に下ろした竿。釣り糸の先に広がる水の世界を、釣り人は想像しつづける（撮影：葛西亜理沙／東京湾）

裏表紙上：己の気配を消して毛鉤を打ち込む。欺けるか、見抜けるか。人と魚の知恵比べである（撮影：川本聖哉／山梨県・小菅川）下：歌川国芳が鉄砲洲（てっぽうず）で釣りをする人々を描いた浮世絵「東都名所 てっぽうず」。鉄砲洲は今の東京都中央区湊、明石町にあたる。地名の由来は、砂洲が細長く鉄砲の形をしていたから、あるいは幕府がここで大砲を試射したからともいわれる（中川船番所資料館蔵）